

<学校名> 熊谷市立新堀小学校
<所在地> 熊谷市新堀182
<電話> 048-533-4555
<本事例の特徴>

今年の夏に開催された東京オリンピックで、本校のALTがボランティアとして参加した。コロナ禍での開催になり、自宅で東京オリンピックを観戦した児童が多くいたことから、会場では実際にどのようにオリンピックが行われたのかを聞く貴重な機会になると考えた。外国語の時間にスペシャルトークとして話をしてもらった様子を、国際理解教育の取組として紹介する。

<具体的な取組や成果>

○外国語の授業 ～スペシャル・トーク 東京オリンピックのボランティア～

・ALTが、東京オリンピックで行ったボランティア活動について紹介した。実際の活動や選手の試合中の様子など、様々な写真を見せながら子供たちに体験したことをわかりやすく話すことで、子供たちは、英語での紹介をメモしながら聞き、内容を理解しようと意欲的に取り組んでいた。



○児童の感想より (一部)



少しわからない言葉がありました。けどたくさんのものをもらったり、ウエイトリフティングのやり方がわかったりと貴重な体験をしたのだとわかりました。これからボランティアをたくさんやっていきたいです。

次に東京オリンピックがいつ来るのかわからないけど、わたしも〇〇(ALT)先生みたいな貴重な体験してみたいです。



メモをカタカナで書いたけど、英語で書けるようになってほしいと思った。

もっと上達して話の内容を聞き取れるようにしたいです。今回は簡単な単語しか聞き取れなかったので、難しい単語も聞き取れるようにしたいです。



○写真による東京オリンピックの様子を紹介に加え、実際に着用した東京オリンピック限定ジャージを着て話をしたことで、子供たちは興味・関心をもってALTの話聞くことができた。児童からも、「自分もボランティアをしてみたい。」や「もっと英語を理解できるようになりたい。」という感想が多く見られ、色々な国の人々と関わることや、英語をもっと勉強したいという気持ちにつながることができた。

○なかには「あまりよくわからなかった。」や「難しかった。」という感想を持った児童もいた。英語に対して苦手意識のある児童に対しては、写真やジェスチャーと共に話すことが有効だと感じた。ALTが1つでも聞き取れた児童を、褒めたり励ましたりすると意欲が高まる。また、児童の反応を見ながら担任の先生に支援をしてもらおうと、より理解が深まるのではと感じた。